



1 導入編

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

Expressワークステーションの特長(→2ページ)	Expressワークステーションの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入のポイント(→5ページ)	Expressワークステーションをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
お客様登録(→10ページ)	お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてください。
セットアップ(→11ページ)	Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。
再セットアップ(→22ページ)	ハードディスクからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

高性能

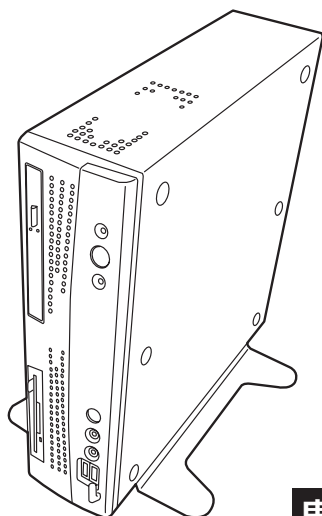
- Intel®社製高性能プロセッサを搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(UltraATA対応)

すぐに使える

Microsoft Windows XP Professional 日本語版またはMicrosoft Windows 2000 Professional 日本語版がインストール済み

高信頼性

- 温度異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能



管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

拡張性

- PCIバスx2スロット
- AGPバスx1スロット(ロープロファイル)
- 最大2GBの大容量メモリ
- ディスク2台搭載可能
- USB2.0x4ポート

省スペース/省電力

- 88(W)×325(D)×335(H)mm(縦置き時)の省スペース設計
- 横置き可能
- スリープ機能

豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT、MIC、PHONE)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリティ)
- CMOS Setup(BIOSセットアップユーティリティ)

自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- システム診断ユーティリティ

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
本体管理	Expressワークステーション本体	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ディスク管理	ディスクミラーリングコントローラ*	FastCheck
ストレージ管理 (バックアップ管理)	DATなど*	ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent Windowsバックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*, NetBackup*
電源管理	無停電電源装置 (UPS) *	PowerChute <i>plus</i> *
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボード	ESMPRO/Netvisor*

* オプション製品。

本体管理

Expressワークステーションはマザーボード上に標準でリソース監視チップを搭載しており、本体に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能とExpressワークステーション管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、 「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発生時にはただちに管理者へ通報します。

監視対象	機 能
CPU	稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能/高負荷の予防機能
メモリ	メモリ使用率の管理機能
冷却ファン	CPUファン稼動状態の監視機能
温度	温度監視機能、温度異常時の起動抑止/停止機能
電圧	電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止
本体電源	電源スイッチOFFによるシャットダウン機能、シャットダウン後の自動電源OFF



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、Expressワークステーションに標準で添付されています。
各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理(バックアップ管理)

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるExpressワークステーションを管理するために次の点について留意してください。

定期的なバックアップは、不意のシステムダウンに備える最も基本的な対応です。Expressワークステーションには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バックアップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップスケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Expressワークステーションに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視することができます。

また、別売のESMPRO/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュール等によるシステムの自動・無人運転を実現することもできます。

本装置のオプションとしてサポートしているUPSは、PowerChute *plus*で管理・制御します。

導入のポイント

導入にあたって重要なポイントを説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください(添付の構成表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているものがあつたときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

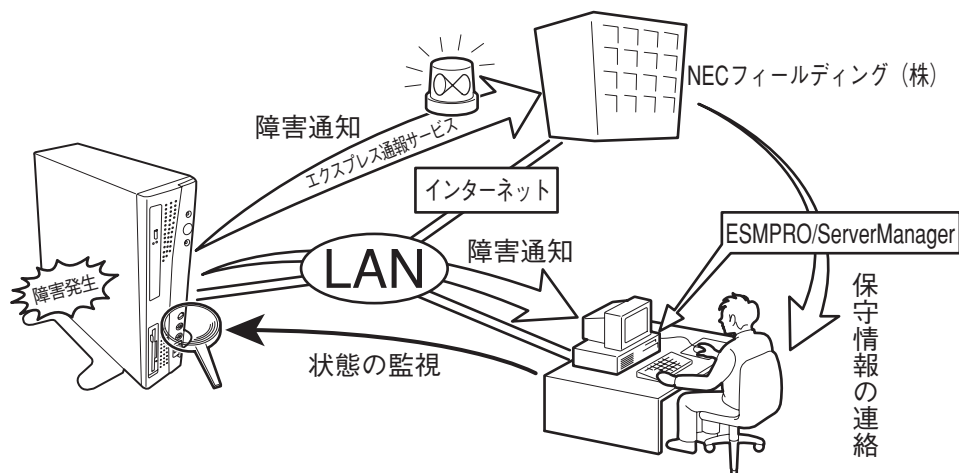
日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーション、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもお検討ください。



電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはMicrosoft Windows XP Professional 日本語版がMicrosoft Windows 2000 Professional 日本語版がすでにインストールされています。

● Microsoft Windows XP Professional 日本語版プリインストールモデル

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。

詳しい手順は12ページで説明しています。

[システムを修復する場合は、...]]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

ー システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

ー 再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなかった場合などに添付のバックアップCD-ROMを使って再セットアップしてください。

再セットアップの方法については29ページで説明しています。

● Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版ブリインストールモデル

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。

詳しい手順は13ページで説明しています。

[システムを修復する場合は. . .]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

ー システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した場合に、バックアップCD-ROMを使用してシステムを起動できる状態にするものです。

破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

ー 再セットアップ

システムの破損などの原因でOSを起動できなくなった場合などに、添付のバックアップCD-ROMを使って、再セットアップしてください。

バックアップCD-ROMを用いた再セットアップ方法については38ページで説明しています。

[オペレーティングシステムをアップグレードするには. . .]

Windows 2000からWindows XPへアップグレードするには、別途オペレーティングシステムを購入してから、購入したオペレーティングシステムの再インストール手順を説明している項目を参照してください。

③ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定やワトソン博士の設定を行います。



ヒント

NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

④ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑤ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアすることで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Power Management Setup」→「Restore on AC/Power Loss」を「Stay Off」に、「System Hardwareメニューの「Wake On Event」→「Resume On PME#」を「Enabled」に設定します。



WindowsでOSをシャットダウンした場合には、「Resume On PME#」を「Enable」に設定しても、リモートパワーオンすることはできません。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Power Management Setup」→「Restore on AC/Power Loss」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

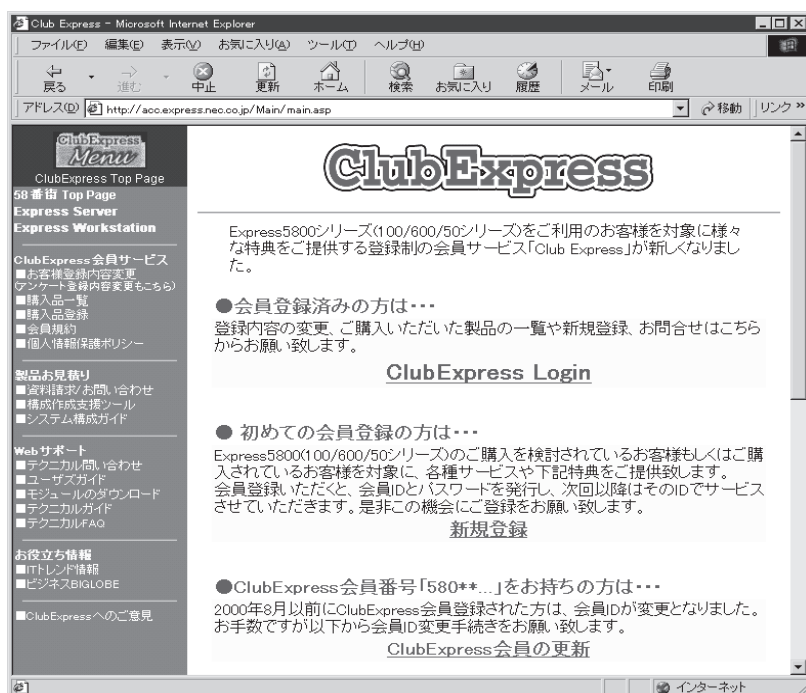
- Windowsバックアップツール(Windows標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ペリタス社)
- NetBackup(ペリタス社)

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。是非、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. グラフィックスアクセラレータボードを別途購入された場合は、購入したオプションのグラフィックスアクセラレータボードを取り付ける。(→86ページ)

重要

その他の内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→56ページ)
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。(→59ページ)

重要

プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続してください。

4. 添付のアース線をExpressワークステーションと電源コンセントのアース端子に接続する。(→62ページ)

重要

アース線は、感電を防止するための電線です。本体のアース端子とコンセントのアース端子をつなぐことで、万一、漏電した場合の感電を防止する役目を果たします。安全のために必ず接続してください。

5. ディスプレイの電源ケーブルのプラグ(2極の場合)を添付のサービスコンセント付き電源コードに差し込む。(→62ページ)
6. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→62ページ)

ヒット

一度電源がONになり、数秒で電源がOFFになります(故障ではありません)。

7. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。
102ページに示す設定例を参考にしてください。

チェック

BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows XP Professional またはWindows 2000 Professionalがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストール済みです。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップを始めます。



本装置にインストールされているService Packのバージョンと、装置に添付されているService Packのバージョンが異なる場合があります。

装置にインストールされているService Pack以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows 2000 RURx 対応(Service Pack x)インストール手順書」または「Windows XP RURx対応(Service Pack x)インストール手順書」を参照してService Packのインストールを行ってください。

Service Pack情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

Windows XP Professionalの場合

Microsoft Windows XP Professionalがあらかじめインストールされているモデルの場合は、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. Expressワークステーションの電源をONにする。

Expressワークステーションは自動的にPOSTを開始し、その後、「Windowsへようこそ」が開始されます。

3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。

お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従ってセットアップを進めてください。

4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- FastCheck

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に進んでください。

Windows 2000 Professionalの場合

Microsoft Windows 2000 Professionalがハードディスクにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。

2. Expressワークステーションの電源をONにする。

Expressワークステーションは自動的にPOSTを開始し、その後、「Windows 2000 Professional へようこそ」が開始されます。

3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。

お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従ってセットアップを進めてください。

4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- FastCheck

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に進んでください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

Windows XP Professional

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● PROSet II

PROSet II は、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSet II を使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、コンピュータに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバスイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSet II が必要になります。

PROSet II をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥XP¥PC62C¥HD1¥WINDOWS¥PROSet2¥IA32」ディレクトリ内の「PROSet.msi」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II - InstallShield Wizard]が起動します。
4. [Next]をクリックする。
5. [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。
6. [Typical]を選択し[Next]をクリックする。
7. [install]をクリックする。
[InstallShield Wizard Completed]ウィンドウが表示されます。
8. [Finish]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● ネットワークドライバ

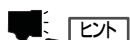
標準装備のネットワークドライバは自動的にインストールされていますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

 **重要** ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

ー PROSet II をインストールしていない場合

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。
[ネットワークとインターネット接続]ウィンドウが表示されます。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接、[ネットワーク接続]をダブルクリックしてください。

3. [ネットワークとインターネット接続]ウィンドウから[ネットワーク接続]をクリックする。
[ネットワーク接続]ウィンドウが表示されます。
4. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
5. [構成]をクリックする。
ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
6. [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。



「1Gbps/Full」に設定する場合は、「Auto Detect」に設定してください。

7. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。
以上で完了です。

ー PROSet II をインストールしている場合

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウで、「クラシック表示に切り替える」をクリックする。
3. [Intel(R) PROSet II] アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II] ダイアログボックスが表示されます。
4. リスト中の「Intel(R) 82540EM Based Network Connection」をクリックし選択する。
5. [Link Config] タブをクリックし、1Gbpsの場合は[Auto Negotiation]の[Enabled]を選択し、1Gbps以外の場合は「Disabled」を選択し、[Forced Speed And Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
6. [Intel(R) PROSet II] ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
以上で完了です。

● グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用される場合は、Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

標準装備のグラフィックスアクセラレータを使用される場合は以下の手順でグラフィックスアクセラレータドライバをインストールしてください。

1. Administrator権限のあるアカウントでログインし、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。
EXPRESSBUILDERのメニュー画面が表示されたら[終了]をクリックしてください。
2. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
3. [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
4. [システム]アイコンをクリックする。
5. [システムのプロパティ]画面で[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックする。
[デバイスマネージャ]が起動します。
6. [その他のデバイス]の[ビデオコントローラ(VGA互換)]をダブルクリックする。
[ビデオコントローラ(VGA互換)のプロパティ]が起動します。
7. [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が起動します。
8. インストール方法の選択で、[一覧または特定の場所からインストールする(推奨)]をチェックして、[次へ]をクリックする。

9. 検索とインストールのオプションの選択で[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]のチェックを外して[次の場所を含める]をチェックし、検索場所として[CD-ROMドライブ名:¥WINNT¥VIDEO¥I845GGrp]を入力して[OK]をクリックする。

「デバイスドライバのアップグレード ウィザードの完了"Intel(R) 82845G Graphics Controller"」とメッセージが表示されます。

10. [完了]をクリックする。

11. システムを再起動する。

- **サウンドドライバ**

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

- **USB2.0ドライバ**

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

● PROSet II

PROSet II は、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSet II を使用することにより、以下のことが行えます。

- ー アダプタ詳細情報の確認
- ー ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- ー Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、コンピュータに耐障害性に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができます。このような機能を利用する場合にPROSet II が必要になります。

PROSet II をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
2. スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥W2K¥PC62C¥HD1¥WINDOWS¥PROSet2¥IA32」ディレクトリ内の「PROSet.msi」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II - InstallShield Wizard]が起動します。
4. [Next]をクリックする。
5. [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。
6. [Typical]を選択し[Next]をクリックする。
7. [install]をクリックする。
「デジタル署名が見つかりません」というメッセージが表示された場合は、[はい]を選択して、インストールを続けてください。
[InstallShield Wizard Completed]ウィンドウが表示されます。
8. [Finish]をクリックする。
9. システムを再起動する。

● ネットワークドライバ

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ー PROSet II をインストールしてない場合

1. スタートメニューから[設定]をポイントし、[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。
[ネットワークとダイヤルアップ接続]ダイアログボックスが表示されます。
2. [ローカルエリア接続]アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。
[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [構成]をクリックする。
[Intel(R) 82540EM Based Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックし、[Link Speed & Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。



重要

「1Gbps/Full」に設定する場合は、「Auto Detect」に設定してください。

5. [Intel(R) 82540EM Based Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
6. [ローカルエリアのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
以上で完了です。

ー PROSet II をインストールしている場合

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [Intel(R) PROSet II]アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスが表示されます。
3. リスト中の「Intel(R) 82540EM Based Network Connection」をクリックし選択する。
4. [Link Config]タブをクリックし、1Gbpsの場合は[Auto Negotiation]の「Enabled」を選択し、1Gbps以外の場合は「Disabled」を選択し、[Forced Speed And Duplex]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
5. [Intel(R) PROSet II]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。
以上で完了です。

● グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用される場合は、Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

標準装備のグラフィックスアクセラレータを使用される場合は以下の手順でグラフィックスアクセラレータドライバをインストールしてください。

1. Administrator権限のあるアカウントでログインし、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットする。
EXPRESSBUILDERのメニュー画面が表示されたら[終了]をクリックしてください。
2. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
3. [画面]アイコンをダブルクリックする。
4. [システム]アイコンをクリックする。
5. [システムのプロパティ]画面で[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックする。
[デバイスマネージャ]が起動します。
6. [その他のデバイス]の[ビデオコントローラ(VGA互換)]をダブルクリックする。
[ビデオコントローラ(VGA互換)のプロパティ]が起動します。
7. [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
[デバイスドライバのアップグレード ウィザード]が起動します。
8. [次へ]をクリックする。
[ハードウェア デバイス ドライバのインストール]画面が表示されます。
9. デバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する]をチェックして、[次へ]をクリックする。
10. 「ハードウェアの種類」で[ディスプレイアダプタ]を選択して、[次へ]をクリックする。
11. 「デバイスドライバの選択」で[ディスク使用]をクリックして、製造元のファイルのコピー元に[CD-ROMドライブ名:¥WINNT¥VIDEO¥I845GGrp]を入力して[OK] をクリックする。
12. モデルの一覧画面で[Intel(R) 82845G Graphics Controller]を選択して、[次へ]をクリックする。
13. 「デバイスドライバのインストールの開始」画面で、[次へ]をクリックする。
「デジタル署名が見つかりませんでした。インストールを続行しますか?」のメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックしてください。
「デバイスドライバのアップグレード ウィザードの完了"Intel(R) 82845G Graphics Controller"」とメッセージが表示されます。
14. [完了]をクリックする。
15. [Intel(R) 82845G Graphics Controllerのプロパティ]の[閉じる]をクリックする。
16. メッセージに従ってシステムを再起動する。

● サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

● USB2.0ドライバ

USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

システムのアップデート –Service Packの適用–

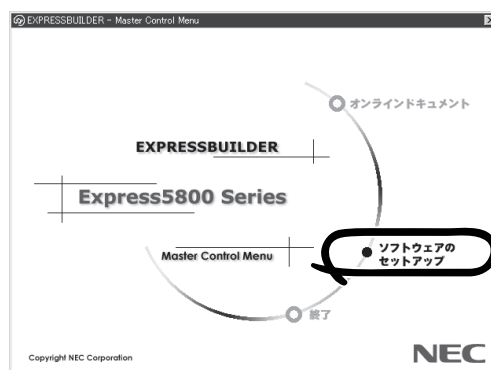
システムのアップデートは、購入時に自動で適用されていますが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

(Service Pack関連の Express5800用 差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのFDを使用してExpress5800用 差分モジュールを適用してください。このときService Packを再適用する必要はありません)

管理者権限のあるアカウント (Administratorなど) で、システムにログインした後、C D - R O M 「EXPRESSBUILDER」を本体のCD-ROMドライブにセットしてください。

表示された画面「マスターコントロールメニュー」の「ソフトウェアのセットアップ」を左クリックし、メニューから「システムのアップデート」をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、Service Packを適用してください。



3 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



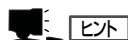
メモリダンプの注意

ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

Windows XP Professional

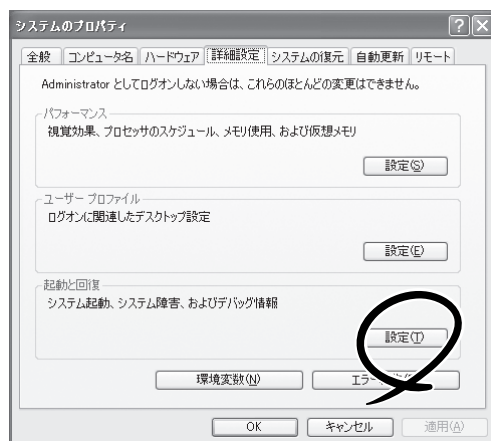
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル]ウィンドウから[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックしてください。

3. [システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定]タブをクリックする。
5. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



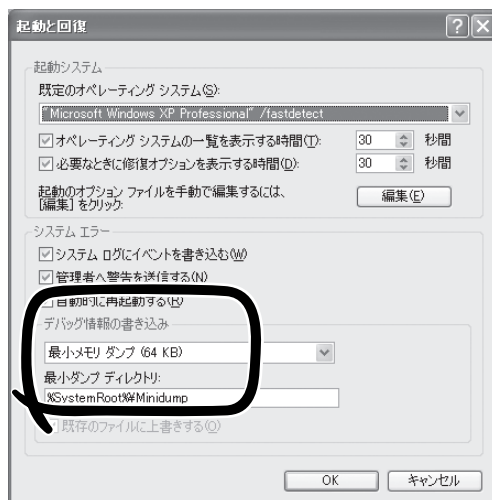
6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\MEMORY.DMP

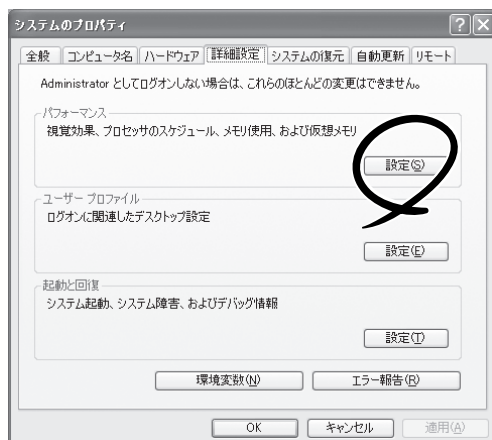
重要

- [デバッグ情報の書き込み]は[カーネルメモリダンプ]を指定することを推奨します。
- 本体に搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量を確認してください。

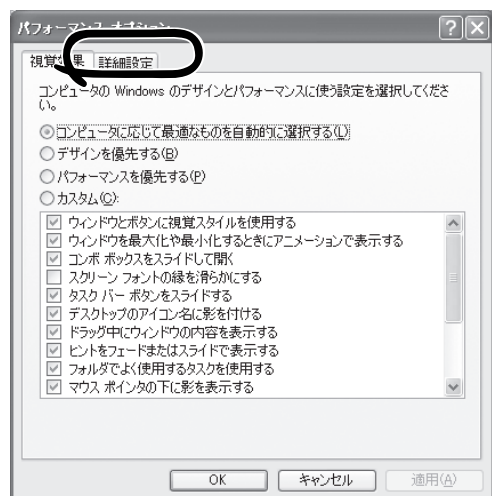


7. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

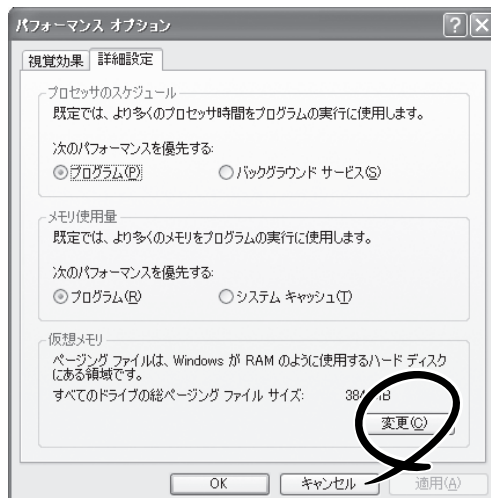
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



8. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



9. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

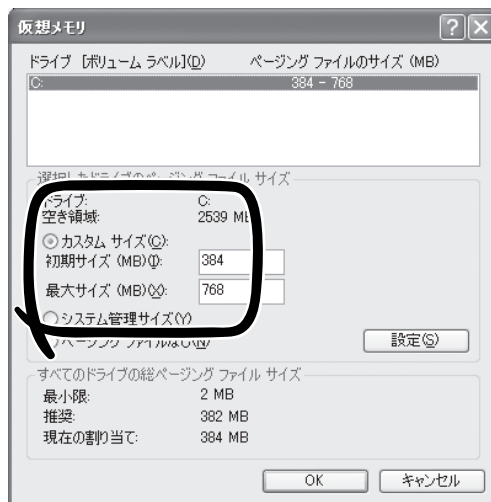


10. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときにデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(31ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。



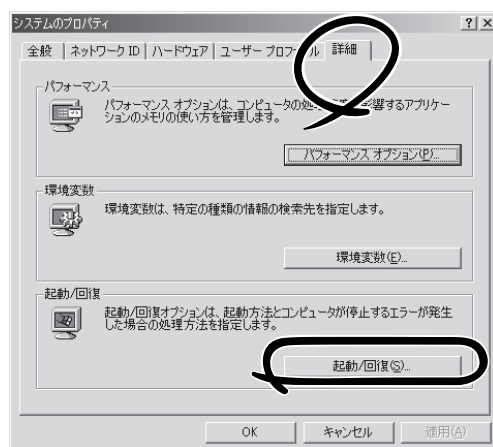
11. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

Windows 2000 Professional

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]をクリックする。



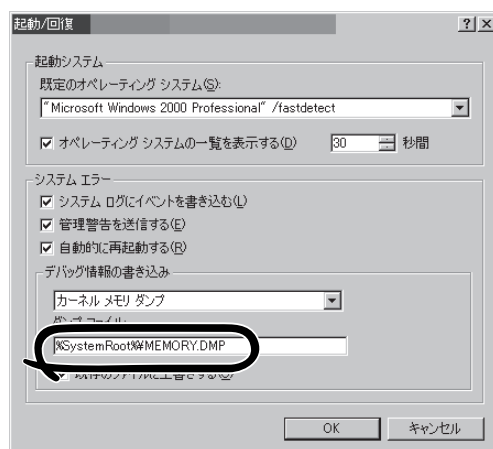
5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

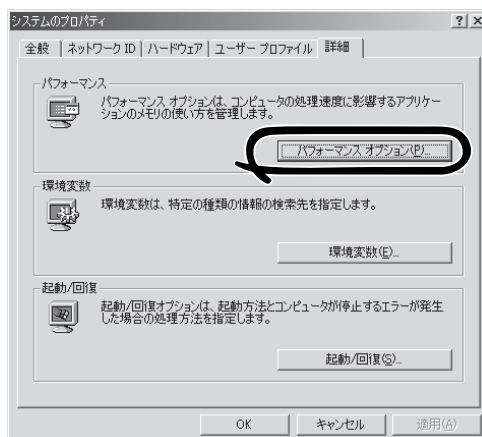
C:\MEMORY.DMP

重要

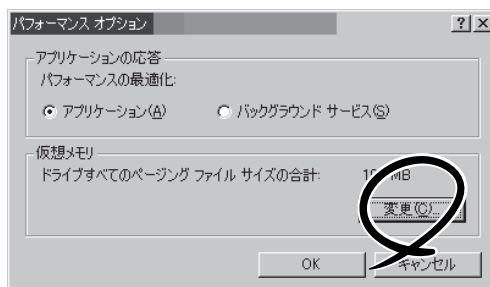
- デバッグ情報の書き込みは[カーネル メモリ ダンプ]を指定することを推奨します。
- 本体に搭載しているメモリサイズ + 12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量の確認を行ってください。



6. [パフォーマンスオプション]をクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。

重要

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときにデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サイズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(40ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバグガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressワークステーションを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるように次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。

3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



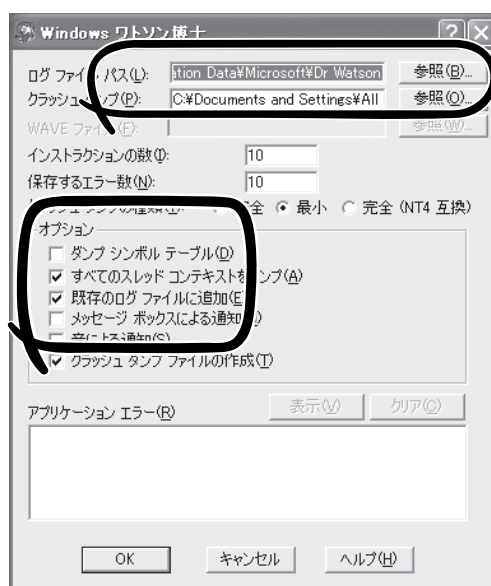
「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]をクリックする。

<Windows XPでの表示例>



4 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressサーバ・Expressワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express 本体用バンドルソフトウェア」または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。

5 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDERを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[システム情報の管理]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。

再セットアップは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。

「シームレスセットアップ」をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、付録A「応用セットアップ」で補足しています。



Windows XPの再セットアップ – シームレスセットアップ –

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressワークステーションをセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からWindows XP、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



ヒント

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておく、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降またはWindows XP/2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、132ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows XPの中で本装置がサポートしているバージョンはMicrosoft® Windows® XP Professional 日本語版(以降、「Windows XP」と呼ぶ)です。

Windows 2000については、この後の項を参照してください。その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



重要

- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- シームレスセットアップでは、ステップ バイ ステップ インタラクティブは自動でインストールされません。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows XPをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$1400\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} + \text{ハイパネーション用サイズ} + \text{アプリケーションサイズ}$$

$$\begin{aligned} 1400\text{MB} &= \text{インストールに必要なサイズ} \\ \text{ページングファイルサイズ(推奨)} &= \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\ \text{ダンプファイルサイズ} &: \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \\ \text{ハイパネーション用サイズ} &: \text{搭載メモリサイズ} \end{aligned}$$



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB + 12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$$1400\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 3204\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

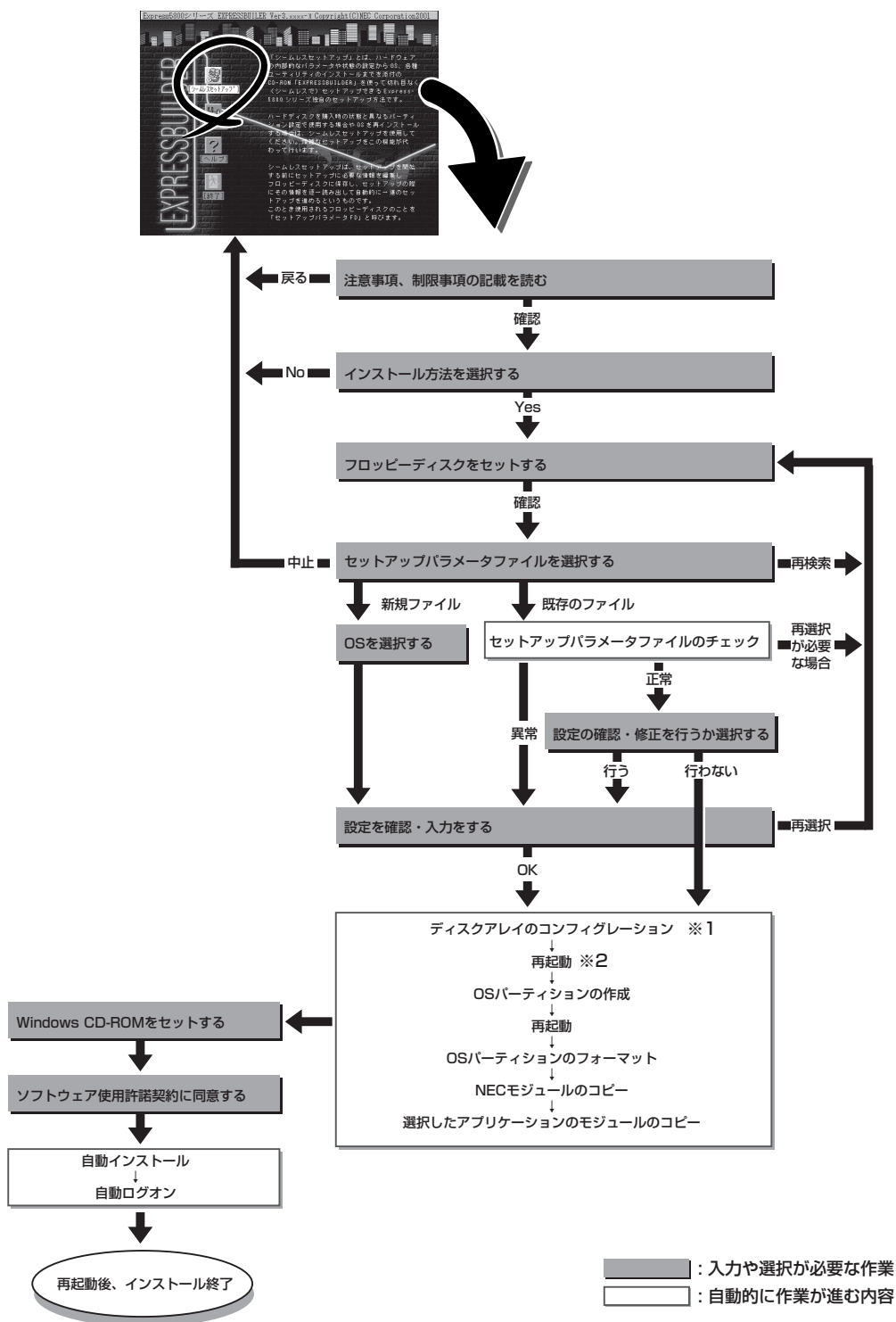
ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

アップグレードインストールについて

Windows 2000からのアップグレードインストールを行う場合は、Windows 2000を格納したパーティションに約630MBの空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクミラーリングコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで「RAIDの新規作成」がチェックされている場合のみ、この処理が実行されます。

※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



重要

- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows XPの起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows XPインストールサプリメントガイド」を参照してください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

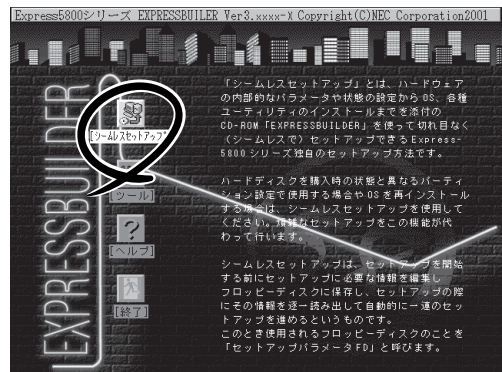
1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
2. ExpressワークステーションのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. 「シームレスセットアップ」をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。



チェック

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

【設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合】

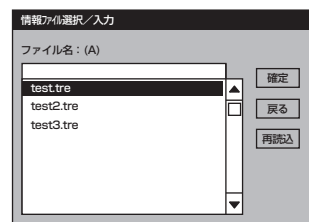
セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

- ① インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



チェック

選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合（たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- ② 確認する場合は [確認] を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ] をクリックする。

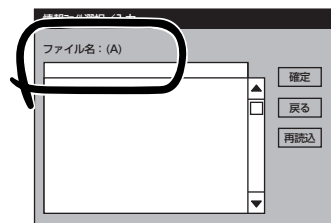
[確認] をクリック→手順6へ進む

[スキップ] をクリック→手順7へ進む

【ブランクディスクをセットした場合】

- ① [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分ををクリックするか、<A>キーを押す。

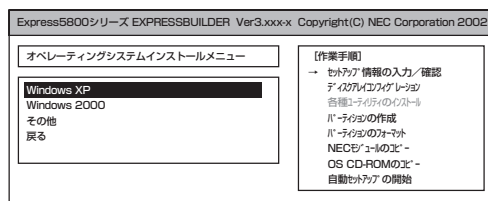
入力ボックスが表示されます。



- ② ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー]が表示されます。リストには、装置がサポートしているOSが表示されます。

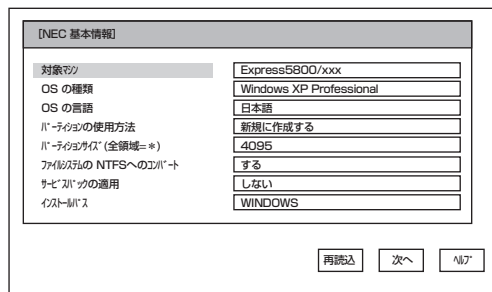
- ③ リストボックスからインストールする[Windows XP]を選択する。



6. [NEC基本情報]画面で設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから [次へ] をクリックする。

画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。また、次ページの「重要」も必ずお読みください。

以降、画面に表示される [次へ]、[戻る]、[キャンセル] をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容が必要に応じて修正してください。



重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます(下図参照)。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows XPをインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- 「大容量記憶装置OEM-FDの適用」はWindows XP用のシームレスセットアップではサポートしていません。
- ここでは日本語での入力できません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- 「既存パーティションを使用する」を選択する場合、流用するパーティション(OSシステムパーティション以外)にActiveなパーティションが存在してはいけません。

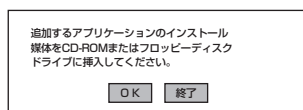
ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読込]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込]は、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

7. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。



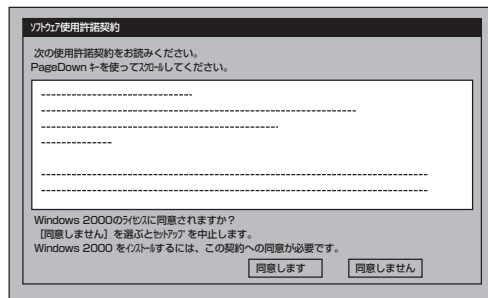
8. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

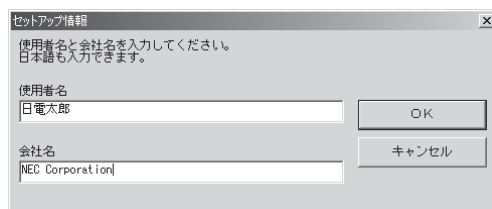
9. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

同意しないと、セットアップは終了し、Windows XPはインストールされません。



Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報]ウィンドウが表示されます。必要に応じて、使用者名と会社名を再入力してください。



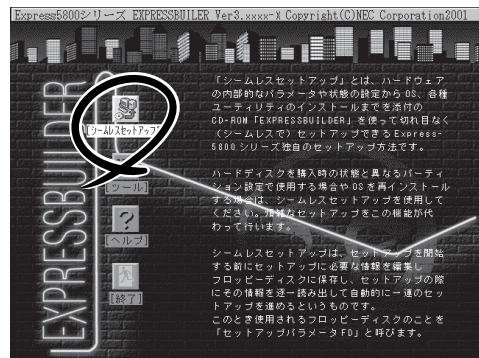
10. 14ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
11. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
12. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
13. 必要に応じて、「ステップ バイ ステップ インタラクティブ(SBSI)」をインストールする。
SBSIはWindows XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単に使いやすい学習環境が用意されています。
SBSIは、以下の方法でインストールできます。
 - ① SBSI CD-ROMを、CD-ROMドライブにセットする。
 - ② 「<CD-ROMのドライブレター>:\setup.exe」を実行する。
メッセージに従ってインストールを行ってください。
 - ③ 21ページを参照し、システムのアップデートを行う。
14. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Windows 2000の再セットアップ –シームレスセットアップ–

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。



シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集してフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要はありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT3.51以降またはWindows XP/2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、132ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows 2000の中で本装置がサポートしているバージョンはMicrosoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、シームレスセットアップでのセットアップ中に(またはExpressPicnicを使った設定中に)、「大容量記憶装置用OEM-FDの適用」にチェックしてセットアップ情報ファイルを作成してください(詳細については保守サービス会社にお問い合わせください)。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
- NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に22ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

Service Packについて

本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned} &1000\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} + \\ &\quad \text{アプリケーションサイズ} \\ &1000\text{MB} \qquad \qquad \qquad = \text{インストールに必要なサイズ} \\ &\text{ページングファイルサイズ(推奨)} = \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\ &\text{ダンプファイルサイズ} \qquad \qquad = \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB} \end{aligned}$$



重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB+12MB」です。
- その他、アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2292\text{MB}$$

となります。



注

シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Packを適用しない場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

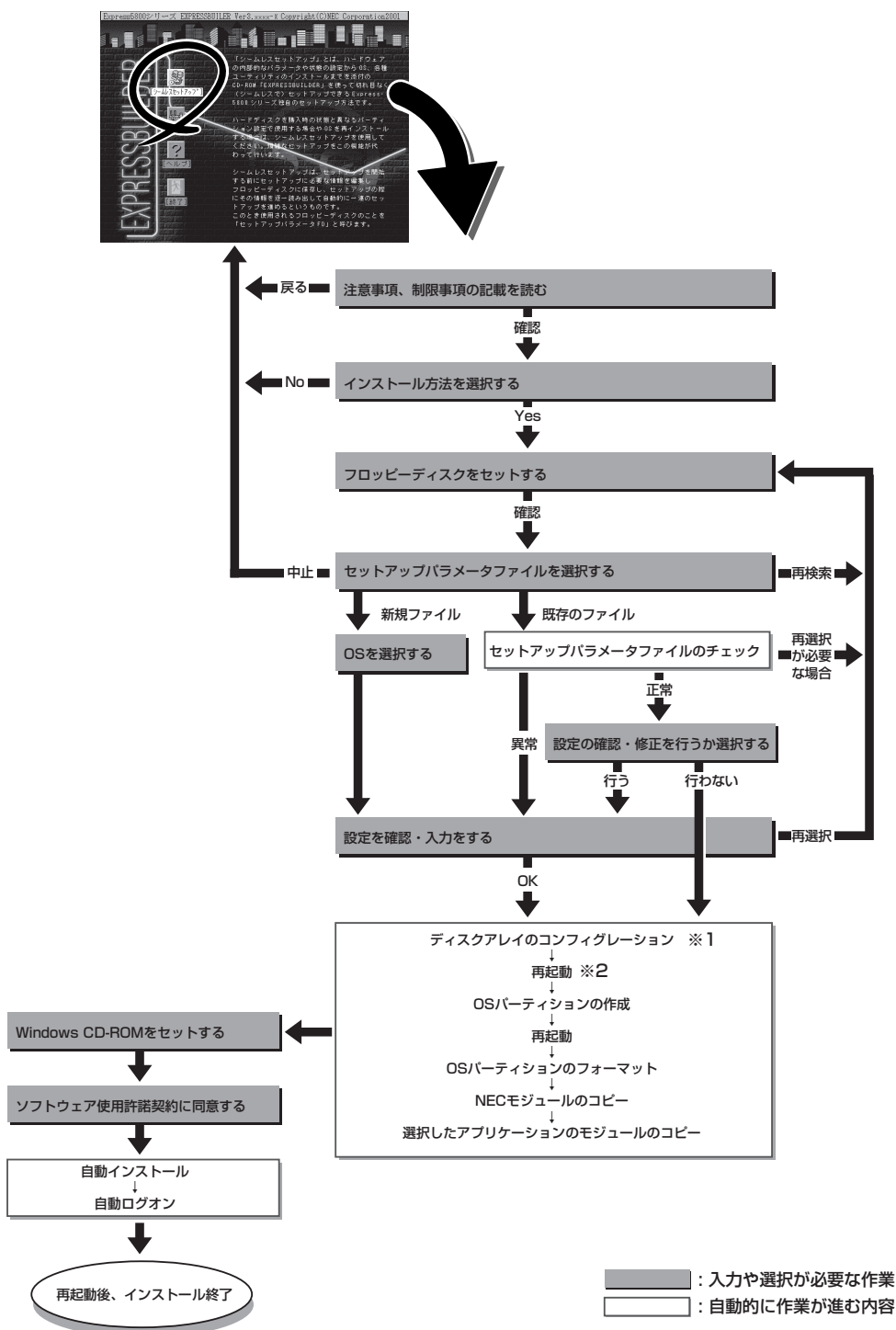
ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Professionalインストールサブリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストールサブリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクミラーリングコントローラが搭載されている場合のみ、この処理が実行されます。

※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマット済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



重要

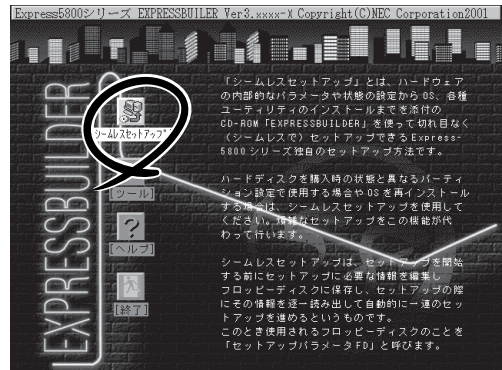
- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows 2000の起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows 2000インストールサブリメントガイド」を参照してください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。
2. 本体のCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。
CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。

5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。



チェック

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

次に、[NEC基本情報]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください(画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます(下図参照)。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(40ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows 2000をインストールします。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は120GB以上の値を指定しないでください。
- インストールするハードディスクの実領域が120GB以上になる場合(アレイディスクも含む)は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語での入力できません。ユーザー名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここでは、仮の名前を入力してください。

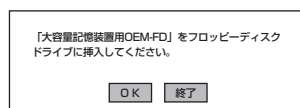
ヒント

- [NEC基本情報]画面にある[再読み込み]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読み込み]は、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

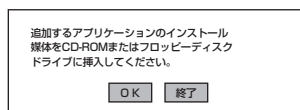
7. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。



8. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されません。



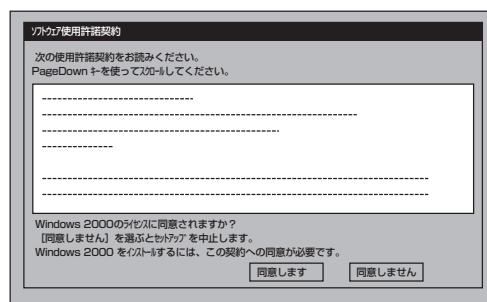
9. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

10. よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

重要

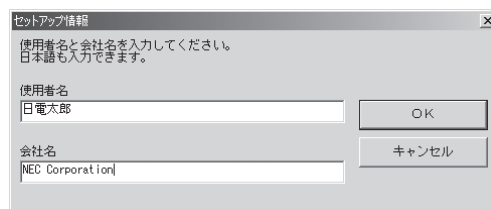
同意しないと、セットアップは終了し、Windows 2000はインストールされません。



11. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。

- ① メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
- ② メッセージに従ってWindows 2000 Service PackのCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

Windows 2000と指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報]ウィンドウが表示されます。必要に応じて、ユーザー名と会社名を再入力してください。



12. 14ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
13. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。

14. 22ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。

15. 28ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。